

理事会報告

2023年度第3回(2024年第1回) 理事会議事録

日時：2024年1月19日(金) 14:00～17:15
場所：TKP 東京駅セントラルカンファレンスセンター
カンファレンスルーム2B

現地出席者：宇野隆(理事長)、溝脇尚志(専務理事)、
青山英史、有賀久哲、井垣浩、石川仁、
内田伸恵、大西洋、大野達也、小川
和彦、古平毅、櫻井英幸、佐々木良平、
澁谷景子、高橋健夫、中村和正、
村上祐司(以上理事)、
生島仁史(以上監事)、
寺嶋秀夫(顧問会計士)、
角田怜子、鈴木弘美、山内蓉子
(以上事務局)

[WEB出席]：岡嶋馨 理事、塩山善之 監事(敬称略)

審議事項

1. 前回議事録承認：2023年第7回理事会(11/29) (溝脇専務理事)

前回(2023/11/29)理事会議事録案と、その後の
進捗状況が確認され、承認がなされた。

2. 会員の入会他 (溝脇専務理事)

1) 2023年11月21日から2024年1月10日まで
の入会申請は28名[内訳_正会員15名、准会
員13名]、会員区分異動5名[正会員→名誉
会員：2023年11月30日社員総会承認済み]
であることが報告され、承認された。

2) 2024年1月10日現在の会員登録状況について
下記のとおり説明がなされた。

- 会員総数：4,335名 [内訳_正会員2,270名、
准会員1,965名、名誉会員56名、
賛助会員39社、国際賛助会員5名]
- 退会者：10名[正会員2名、准会員8名]
- 正会員内訳：医師2,053名 歯科医師46名
医師以外171名
(医師比率90.44%)
- 男女比率：正会員[男性1,819名、女性451名]、
准会員[男性1,505名、女性460名]
- 専門医数：1,442名
[男性：1,168名、女性：274名]

3. 第40回学術大会長・開催会場の承認について (宇野理事長)

- 学術大会長選任規程第3条「理事会は社員総会
で推挙された候補者を大会長に選任する」に基
づき、溝脇尚志専務理事を第40回学術大会長
として最終決定する旨が承認された。
- 第40回(2027年)学術大会の開催会場(国

立京都国際会館)の予約に際し、2024年1
月より会場費が10～20%値上げとなること、
2024/2/7までに予約確定の場合は値上げ前の
旧料金での適用が認められ、会場費が約700万
円程度安価となる旨が説明された。従来はコン
ベンション会社の立替等で4年前からの本体か
らの前払金はなかったが、今回は会場を確定し、
各年の会場費前払い(2024年3月～2025年
10月:各350万円等)を進めることが承認された。

4. 2022・2023年度がん放射線治療推進委員会委 員追加推薦について(溝脇専務理事/石川理事)

2023年1月13日理事会承認以降の委員会委員追
加について、がん放射線治療推進委員会石川委員長
より、脊椎SBRT小委員会事業担当をお願いする委
員の追加推薦があり承認がなされた。

がん放射線治療推進委員会：平田岳郎 会員(大阪大)
金田朋也 会員(国がん中央)

5. 2024・2025年度選挙管理委員会委員の推薦/ 選挙日程案について(溝脇専務理事/宇野理事長)

- 定款細則11条・19条及び学術大会長選任規
程に基づき、以下、2024・2025年度「代議員
選挙管理委員会5名」「理事・監事選挙管理委
員会3名」「第41回学術大会長選挙管理委員
会3名」の委員について推薦がなされ、承認された。
委員長：加賀美芳和会員(昭和大)※
副委員長：小原東也会員(岩手県立中部病院)※
委員：相澤理人会員(京都大)※
林和彦会員(大阪大)
熊澤琢也会員(群馬大)

注※：理事・監事、第41回学術大会長選挙管
理委員兼務者

- 代議員選挙日程案および理事・監事選挙日程案
(2024/3/7選挙公示、2024/11/21 役員選
挙投票・決定等)が提示され承認された。また、
今回より、代議員選挙人名簿に、過年度(2022
年度)会費未納者を掲示することが確認された。

6. 定款14条1項・第15条3項「代議員数の増員」 「代議員の被選挙権・選挙権の確定日」の変更 に伴う定款施行細則変更と、ダイバーシティ枠の 定数・最低得票数について(宇野理事長)

- 定款14条1項「代議員数の増員(割合：正会員
の1/12→1/11～1/10)」・第15条3項「代議
員の被選挙権・選挙権の確定日(3/31→3/1)」
の変更が2023/11/30社員総会で承認され、そ
の際説明された細則の変更案が提示された。主
な変更点は以下の通り。
①細則第8-9条：代議員は一般枠代議員(一般
定数は3月1日現在の正会員数に基づき1/12
の割合)に立候補した上で、ダイバーシティ枠
(女性枠と物理・技術枠)いずれか1つに立
候補可能等
②ダイバーシティ枠の定数・最低得票数は選挙
ごとに理事会が定めること
③細則第10条：欠員については、一般代議員
は従来通り、ダイバーシティ枠は各枠の最低
得票数を得た者から選出。

- 2024・2025年度代議員選挙のダイバーシティ枠定数は、女性枠20名/物理・技術枠5名、最低得票数は5票とすることが承認された。

7. 第8回認定施設 審査について / 認定施設規程の改訂について (小川理事)

- 今年度(2023年)第8回認定施設審査:対象66施設(更新対象:54施設、新規申請:12施設)に対して以下認定する旨、承認がなされた。
更新46施設(A:20施設、B:16施設、C:8施設、S・小児:1施設、S・粒子線:1施設、)
猶予申請7施設、辞退申請1施設/新規12施設(A:3施設、B:4施設、C:5施設)
- 過年度(2021年第6回・2022年第7回)認定施設(更新)審査について、4施設を追加認定とし、猶予期間が2024年3月末までの施設が2施設である旨、承認がなされた。
- 現認定施設規定第8条(7)により、過去3年間に当会学術大会・部会での筆頭発表者としての学会発表を行っていないため更新取り消し・辞退を行った施設が複数ある旨説明され、当会学術大会・部会での筆頭に於いて共同発表者でも認めること、また機構認定単位が認められた学会等での筆頭発表を含める改定案が示され承認された。またこの規程変更に伴い、添付書類を追加した施行細則案が示され承認された。

8. 研究課題「研究助成金細則」の改定について (村上理事)

研究課題の助成金の会計報告において、近年採択研究と直接関連性の少ない用途での支出が多くみられるようになってきていることが説明され、「助成金の用途を採択研究に関する目的に限定」することを追記した改定案が示され承認された。

9. 放射線治療計画業務補助者の教育/研修体制等の構築 (厚労科研大西班) (大野理事)

厚労科研大西班「放射線療法の提供体制構築に資する研究:課題解決教育班」研究目標「社会実装可能な療での放射線治療計画業務補助者の教育/研修体制等の構築」について、今年度、物理技術関連8団体(当会代表:大野理事/澁谷理事)よりの派遣委員を交えた8回の会議が実施され、今後の方向性・方針がまとめられ、これに関して当会への確認・回答依頼があった。これについて放射線治療関連6団体により構築されている放射線治療品質管理機構が取りまとめ役になって進めていくことに賛同する旨承認された。また今後の個々の方針案については、各理事会で情報共有をしながら、慎重に議論を進めていく旨の回答を大野理事にてとりまとめ回答書を作成する旨承認された。

10. 「膵癌診療ガイドライン」委員および「急性放射線皮膚炎のケアに関する合同ガイドライン」評価委員の推薦依頼について / 「放射性顎骨壊死診療ガイドライン」の作成について (井垣理事)

- 日本膵臓学会より膵癌診療ガイドラインについて、以下6名の委員推薦の依頼があり、承認された。

染谷正則 会員(札幌医科大学)、大栗隆行 会員(産業医科大学)、篠遠誠 会員(QST病院)、梅澤玲 会員(東北大学)、稲葉浩二 会員(国がん中央)、土屋高旭 会員(札幌医科大学)

尚、今回、協力団体としての当会クレジットは記載しないとの回答であったが、次回以降を踏まえて前向きな検討をお願いすることが確認された。

- 日本がん看護学会より「急性放射線皮膚炎のケアに関する合同ガイドライン」評価委員について以下2名の推薦依頼があり、承認された。
淡河恵津世 会員(久留米大学)、中村聡明 会員(関西医大)
- 厚労科研「がん診療を行う医療機関における支持療法の質の向上に資する研究R5~R7年度」代表者 全田貞幹 会員(国がん東)、櫻町円香 会員(国がん中央)より、顎骨壊死治療の主体となる歯科系学会と当会を含む複数の学会の協力により、初めての「放射線性顎骨壊死診療ガイドライン(仮)」作成の打診が古平理事を通してあった旨説明された。作成の主体や今後のスケジュール等を確認し検討していくことが承認された。またMindsの手法に則ってのガイドライン作成も提案されたが、各ガイドライン評価依頼も増え、GL委員会とは別の統括委員会を組織する方向も今後は検討していくことが確認された。

11. 構造調査データ公開/JROD利用規程/コード化案に対するHELICS協議会による審査 (中村理事)

- 2021年定期構造調査について、2023年2月末まで回答のあった645施設(約8割)の解析データ結果が示され、今回より、まずは速報として学会ホームページへ公開し、追加の30施設のデータは解析が終了した時点で最終版を掲載することが承認された。
- JROD利用規定が現状ないことについて、「現時点では原則として受け付けていない。必要な場合は別途相談等」旨を、学会ホームページに公開する案が承認された。
- 当会データベース委員会で作成中のコード化案について、HELICS協議会(2024/1/13開催)より、標準規格を評価審査したいとの依頼があった旨説明され、費用も不要であるため評価審査依頼をする旨承認された。

12. 第三者出力線量評価認定制度 第2回施設認定審査結果 (澁谷先生)

第2回第三者出力線量評価認定制度:認定施設の申請(期間:2023年12月1日~22日)について、8施設を受付、当作業部会による事前確認・認定審査会議(2024/1/10)の結果、8施設はすべての認定要件を満たすことが報告され、承認がなされた。なお、現在規定上、年2回の申請受付となっているが、今後の申請状況により年1回申請への変更も検討する旨確認された。

13. FARO 役員の改選について (青山理事)

アジア放射線腫瘍学連盟(FARO)2024-2025年新役員について、以下の通り推薦があり、承認された。

Secretary General: 永田靖 会員
Council member : 宇野隆 理事長、
青山英史 理事 (新)
Education committee member :
内田伸恵 理事、川村麻里子 会員
Research committee member :
村上祐司 理事 (新)、青山英史 理事、
打浪雄介 会員
Scientific committee member : 大野達也 理事、
久保巨輝 会員
Leadership development program
committee member : 松尾幸憲 会員 (新)、
中村聡明 会員
また、人数制限もないため、今後は若手の会員の
の推薦も検討することが確認された。

14. 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会
(JSMO2025) 合同シンポジウム (佐々木理事)
日本臨床腫瘍学会より第22回日本臨床腫瘍学会
学術集会 (2025/3/6-8) の合同シンポジウムの依頼
があった旨説明され、生島 仁史会員を企画者として
推薦することが承認された。

15. 令和6年放射線治療関係の医療技術評価結果と
その対応について/IMRT 臨床的ガイドライン
案/厚労科研大西班について (大西理事)
「令和5年度第2回診療報酬調査専門組織・医療
技術評価分科会資料」が提示され、令和6年診療報
酬改定において当会提案19項目のうち、対応する優
先度が高いとされた5技術 [IMRT2回目 (小細胞肺
癌のみ) / 固定具の適応拡大 (良性疾患) / 医療機器
安全管理料2の適応拡大 (密封小線源治療) / 陽子
線/重粒子線] が説明され、今回改定では対応を行
わないとされた技術14のうち「体外照射の見直し (基
本的な照射料の引き上げ等)」「IMRTの適応; 限局
性固形悪性腫瘍に限る解釈の明確化」等学会全体に
とって重要な項目についての提案方法等についても議
論がなされた。提案数を絞って高い採択率を得てい
る他学会も参考に、重要な案件をいくつか基本にし、
細かい項目を少し加えるといった方針とすること、健
保委員会委員のみでの作成では負担が大きい点につ
いて、粒子線のように外部専門家へのシステマティッ
クレビューの依頼や、MR画像誘導や小線源等のよう
に内部専門委員による作成により詳細なデータを提出
し交渉する方法を検討し、今後は理事会全体で提案
項目優先順位等も重点的に検討して進めることが確
認された。

- 「IMRT臨床的ガイドライン2023 (案)」 (初版
2008年) が示され、意見募集がなされた。人的・設備
の体制に関する詳細「技師者等についてIMRTを実施
する治療装置あたり1名以上の常勤専従配置を強く
推奨する」等の表現を確認し、引き続き検討を進め
ていく旨が承認された。
- 厚労科研大西班「放射線治療の提供体制に資す
る研究」について、第1期2021-2022、第2期
2023-2025の進捗状況が説明された。
- IMRTの施設要件の見直しや放射線治療計画
(支援) については、従来よりの理事会の検討

が確認され、人手不足による医師負担軽減や、
医師の少ない地方の医療の質を高めるため「常
勤換算医師2名」を、AI、遠隔治療、常勤換
算定義等を含めながら「医師1名+治療計画補
助者」とする方向で、「時代に即した施設基準」
を引き続き検討をしていく旨が確認された。

16. JASTRO-gram 投稿における規定変更 (岡嶋理事)

JASTRO-gramの掲載依頼の中には当会や関連学
会のお知らせでないものが散見されるため、発信す
る情報は当会の公式なお知らせと、密接な関連学会・
団体に関する案内は全会員にとって有用なお知らせと
する旨記載した改定案が示され、承認された。

報告事項

1. 理事長・専務理事職務状況報告 (宇野理事長 / 溝脇専務理事)
現在までの業務状況・活動報告がなされた。

2. 会計報告 (溝脇専務理事 / 寺嶋会計士)
● インボイス制度について、当会及び取引先も登
録済みであるため決算にはほとんど影響はない見
込みであることが説明された。また2023年9月
-11月の第1四半期の中間収支報告書が提示さ
れ、学術大会収支はこれから組入れるところで、
概ね例年通りで進んでいる旨、説明された。
● 財務・総務委員会による「新規予算審査」につ
いて、昨年度は4回であったが今年度は原則1回
(事務局締切~2024/5/27) を予定しているこ
とが説明された。

3. 能登半島沖地震について (宇野理事長)
能登半島沖地震の放射線治療体制支援等につ
いて、1月初旬において、ホームページへ情報提供の依
頼を掲載したこと、また1/16に金沢大学の高松繁行
会員より県内の放射線治療情報について報告があつた
旨報告された。

4. 編集委員会報告 :
2023年JRR Publisher report (佐々木理事)
Oxford出版資料より(2023/11/30付JRR
Publisher report) 各種報告がなされた。特に、AI
ツールを利用した論文増加への対応のため、投稿規
定Authorship等が変更されたこと、また不正
執筆として問題になっているPaper Mills (研究者に
代わって論文を不正に作成して販売する業者や組織)
による論文は学術出版における大きな問題となっており、
Paper Millsによる論文が取次から外され、閉刊へと
追い込まれたジャーナルが複数ある旨等が報告された。

5. 渉外・関連学会委員会報告 : 後援申請許諾 / 他領
域発表助成対象者の決定 (佐々木理事)
● 「共催・協賛・後援等の依頼等に関する取扱規
程」に基づき、当委員会での審議の結果、緩和ケ
ア普及啓発活動市民公開講座 他4件の後援の
許諾を行った旨、報告された。
● 第36回学術大会での発表者より海外優先枠6
名・国内17名が補助対象者として決定した旨

報告された。また、関連学会にて発表の際、当会推薦を受けている旨のPRを依頼することが確認された。

6. ガイドライン委員会報告：(国際) 上咽頭がんガイドライン委員推薦 / 骨髄移植前全身照射診療ガイドライン作成提案 (井垣理事)

- CSCOより依頼のあった“上咽頭がんガイドラインCSTRO CACA CSCO & ASTRO Joint”の委員推薦依頼について、古平毅会員(愛知県がんセンター)・安田耕一会員(北海道大学)を推薦し、既に承諾され活動が開始している旨報告された。なおCSCOから協力団体として当学会名クレジットの記載は承認されているが、提示のガイドライン名に当会名の記載がないため、申し入れすることが確認された。
- JROSG 悪性リンパ腫血液腫瘍委員会骨髄移植前全身照射に関する診療ガイドライン作成の計画があり、今後、JASTROに協力要請したいとの副島俊典会員(神戸陽子線センター)からの依頼がある旨が報告された。

7. 用語委員会報告：「用語集・略語集」改訂作業に係わる意見公募について (有賀理事)

掲載用語の拡充および「用語集・略語集」の認知度上昇のため、投稿サイトを用いた意見公募を行うことが報告された。なお公募結果については委員会内で改訂を行い、改定前にパブコメを実施し、用語に関する情報提供を掲載するページを作成予定である旨報告された。

8. 粒子線治療委員会・部会報告：第128回厚生労働省先進医療会議資料について (櫻井理事)

粒子線治療に対する適応症毎のエビデンス評価について、第128回厚生労働省先進医療会議(2024/1/11)にて検討され、早期肺癌(I~IIA)、大腫瘍径の局所進行子宮頸部扁平上皮癌、婦人科領域悪性黒色腫が粒子線治療に対する科学的評価について既存治療と比較して十分な科学的根拠があるものとして評価されたことが報告された。

9. RI 内用療法症例登録事業小委員会(WG) 報告 (中村理事 / 石川理事)

データベース委員会、がん放射線治療推進委員会(RI内用療法推進WG)にて新規事業として申請・承認された「RI内用療法症例登録事業」の小委員会委員*が報告され、今後は1/29に第1回WGを開催の予定で、データベースプラットフォームの構築に向けて活動を開始した旨報告された。

* WG委員長：中村和正 会員(DB委員会委員長)

委員：澁谷景子 会員 神宮啓一 会員
富田夏夫 会員 宮脇大輔 会員
武田一也 会員 飯塚裕介 会員

10. がん放射線治療推進委員会報告 (石川理事)

以下の8グループによる事業・活動の進捗状況が報告された。

- 医学生・研修医セミナー(中村聡明 委員)：オンラインセミナー2024/5/18、オンサイトセミナー

2024/7/6(Elekta 東京)、2024/7/27(Varian 大阪)

- 脊椎SBRTハンズオンセミナー(中村直樹 委員) [2024/6/2 Varian 本社]
- がんプロ養成プラン(野本由人 委員) 人材育成アンケート実施予定
- 医学部における放射線治療教育(前林俊也 委員) 教材追加収集の依頼中
- 少数常勤放射線治療医サポート(福田晴行 委員) 症例相談：方法等を再検討後理事会へ提出予定
- 放射線治療の需要予測(野田真永 会員) 適正配置に関する検討を開始
- RI内用療法推進(神宮啓一 委員)：第5回RIセミナー[2024/3/9・西井龍一会員(名古屋大)]
- 男女共同参画・働き方改革(山内智香子 委員) アンケート結果を報告し、ダイバーシティルームについても学会への要望を提出予定

11. 生物部会報告 (石川担当理事)

細胞死・分裂死の定義について、生物部会常任幹事会(2023/12/1)にて議論され、「分裂死と増殖死は同義ではなく、分裂死は増殖死(放射線生物学分野においてclonogenicityの喪失として定義される細胞死)に包含される一形態解釈するのが妥当である」との結論となった旨報告された。今後、最終的に得られた結論を生物部会として当会Newsletterや放射線生物研究等の日本語媒体を活用して周知することになった旨報告された。

12. 教育委員会報告：がん放射線治療看護セミナー/優秀教育発表奨励賞選考他報告 (内田理事)

- 第39回がん放射線治療看護セミナーの報告がなされた。[2023/11/11開催、中村聡明 世話人、ハイブリット(ホテルシーモア+WEB)、参加者：会員235名、非会員277名]
- 学術大会教育講演のスライド集(冊子)配布：会員アンケート結果より、次年度は会期前にPDF閲覧可とし、希望者のみへ配布することが説明された。
- 優秀教育発表奨励賞について委員会での検討の結果、以下9名の演題を選出した旨報告された。秋田知子 会員(山梨大)「ハイドロゲルスペース留置時に静脈内迷入を生じた4例の経験」
宮部泰秀 会員(札幌孝仁会記念病院)「線量分布図から作成した3D画像を用いた皮膚炎の予想と実際の比較」
半田恵実 会員(都立駒込病院)「脊柱管内進展を伴う局所進行非小細胞肺癌の高精度治療-脊椎SBRT技術の応用」
真室奈青 会員(京都大)「肺定位放射線治療後に照射野内の肺アスペルギルス症を発症した2例の検討」
水上翔太 会員(東京都立墨東病院)「左心房内へ直接浸潤を伴うT4b食道癌への根治的CRT後、瘻孔形成なく腫瘍消失を得た一例」
高松繁行 会員(金沢大)「多発肝海綿状血管腫に放射線治療を行った3例の検討」
小館明日香 会員(千葉大)「OHVIRA症候群合

併子宮頸癌の1例」

岡林俊 会員（山梨大）「前立腺癌根治照射後の局所再発病変に対し低線量率密封小線源治療を施行した一例」

高将司 会員（富山県立中央病院）「Blastic plasmacytoid dendritic cell neoplasm (BPDCN) に対する放射線治療」

- 医用原子力技術研究復興財団との共催・助成金支援を受けた制度：2023年第2回海外研修助成事業（研修対象期間：2023/4～2025/2）の公募に対して応募がなかった旨報告された。
- 今後の各教育委員会関連のセミナー開催予定について報告された。

13. 国際委員会報告：2024年ASTROとの合同シンポジウム/ESTROブース設置/日台シンポジウム（青山理事）

- 2024年ESTRO（5/3-7）当会ブース設置：現地参加予定の古平毅 理事が現地での対応を支援いただけの旨報告された。
- 2024年ASTRO（9/29-10/2）での当会との合同シンポジウム [X線治療：木村智樹 会員（高知大）、粒子線治療：水本斉志 会員（筑波大）] を演者として推薦・登録を行った旨報告された。
- 第9回日台シンポジウム（2024/8/17-18、現地：札幌市開催、世話人：青山英史 会員）：一般演題募集予定であること、プログラムや演者・座長についてはTASTROと準備を進めている旨報告された。

14. 放射線治療専門医制度委員会報告：機構認定サブスペシャルティ領域試験実施、研修に関する各種お知らせ（古平理事）

2024年機構認定サブスペシャルティ領域試験実施に関して、「専門研修手帳」が会員専用ページに掲載されており、学会認定で研修を実施した場合は当該統括責任者から学会宛てに「受験資格確認願ひ」（見本送付予定）の提出をお願いすること、統括責任者に変更があった場合はサブスペ研修「統括責任者変更届」提出と、期間等イレギュラー者については「研修開始届」提出が必要であること、受験への対応等の質問は統括責任者を通して質問する旨が依頼された。また、研修で求められる症例のカテゴリー3)特殊治療「粒子線治療」について、高精度放射線治療のカテゴリーに分類されるかどうか検討する旨確認された。

15. 広報委員会報告：学会HP上の書籍紹介に関する合意/特定資金PR事業経過報告（岡嶋理事）

- 学会ホームページ一般向け書籍紹介コーナーに掲載する書籍の基準が曖昧だったため、各種の書籍が案内されていたが、委員会にて整理し、現在は学会編集の書籍のみを掲載している旨が報告された。
- 今年度特定資金PR事業進捗報告 ①リクルート動画作成：3本（各4分）の企画を準備 ②市民公開講座：講義+がん治療経験者との対談等の企画の開催準備 ③放射線治療を題材にしたコミックPR：入賞作品4作品を1/5学会ホームページへ発表。今後は優秀2作品の冊子の作

成、新聞等のタイアップ広告やX（旧twitter）を用いてPR周知していく旨確認がなされた。

16. DB/ 健保委員会報告：放射線治療コードWG活動報告（大西理事/中村理事）

健保委員会とDB委員会とで合同で進めているWG進捗について、合同体制は一旦解消し、今後は各委員会に分かれて、DB委員会はStemRT（7桁/J-RODの代わりになる症例登録的な位置付け）について、ほぼ完成に近いためメーカーと継続検討を進めていくこと、健保委員会においてはKコード（13桁/健保請求に直結したもの）を現在、名称分類の決定段階で検討を進めていることが報告された。

17. 倫理委員会報告：学術集会への演題応募における倫理的手続きに関する指針（高橋理事）

日本医学会連合の「学術集会への演題応募における倫理的手続きに関する指針（2023/3/30）」について、応募演題のカテゴリーに応じた倫理手続きを確認するカテゴリーごとのチェックリストが設ける等一部改定（2024/1/10付）の連絡が報告された。委員会にて当会ホームページ「術大会等における応募演題の倫理規定とその運用について」の掲載内容の修正の検討を進めていく旨説明された。

18. 緩和的放射線治療委員会報告：診療ガイドライン準備状況/好事例集WG報告（高橋理事）

- 緩和的放射線治療診療ガイドライン作成について、緩和的放射線治療委員会を中心として、公募メンバーを加えた40名でWGを決定し
- Mindsのガイドライン作成指針に準拠したCQベースでの診療ガイドライン作成を進めている旨報告された。
- 緩和的放射線治療の好事例集作成WGについて大枠が決定し、完成後はがん診療連携拠点病院を中心に電子媒体にて配布予定である旨報告された。